

## 『宇宙論の物理・上』第1刷以降の訂正表

2023年7月4日現在

箇所	誤	正
p.iv, 1.20	...扱う理論は, 現在までの...	...扱う理論は, 一部を除いて現在までの...
p.13, 1.23	ローレンツ-ヘビサイド単位系	ヘビサイド-ローレンツ単位系
p.14, 式 (1.53)	$\frac{\partial^2 A}{\partial t^2}$	$\frac{\partial^2 A}{\partial t^2}$
p.43, 式 (1.193)	$\frac{dx^\mu}{d\tau^2} + \dots$	$\frac{d^2 x^\mu}{d\tau^2} + \dots$
p.47, 式 (1.210)	$A^\mu$ (右辺第2項)	$A^\nu$
p.52, 式 (1.235)	$-\ddot{h}_{ii}$	$-\frac{1}{2}\ddot{h}_{ii}$
p.58, 式 (2.19)	$+\frac{2c^2}{a^2}K$	$+\frac{2}{a^2}K$
p.58, 式 (2.20)	$+\frac{c^2}{a^2}K$	$+\frac{1}{a^2}K$
p.71, 1.9	$w = -1/3$	$w = 1/3$
p.80, 式 (2.107)	$\pi^2 G^2$	$\pi^2 G^{-2}$
p.86, 式 (2.140)	$\sqrt{\frac{45}{16\pi^3}}$	$\sqrt{\frac{45}{4\pi^3}}$
p.105, 式 (3.1)	$\int_{-\infty}^{\infty} L dt$	$\int L dt$
p.105, 1.17	...で与えられる. ラグランジアンは...	...で与えられる. ただし, 記法上は省略しているが, 積分範囲は考える系の全体である. ラグランジアンは...
p.110, 1.14	...同一の座標点で...	...同一の時空点で...
p.112, 1.21	式 (3.38) に対してさらに座標微分 $\partial_\lambda$ をとった式...	式 (3.38) の座標微分 $\partial_\mu$ を各項に作用させた式...
p.116, 式 (3.58)	$Z_{Ap}^\mu \rightarrow 0$	$Z_p^\mu \rightarrow 0$
p.131, 式 (3.134)	$\sqrt{ \mathbf{P} ^2 + m^2}$ (2行目のデルタ関数の中)	$\sqrt{ \mathbf{k} ^2 + m^2}$
p.147, 1.7	ローレンツ・ゲージ条件 $\partial_\mu A^\mu$ により,	ローレンツ・ゲージ条件 $\partial_\mu A^\mu = 0$ により,
p.150, 1.18	$(iq\varphi, -iq\varphi, 0)$	$(iq\varphi, -iq\varphi^*, 0)$
p.153, 式 (3.255)	$= 1 + \dots$	$= \mathbb{1} + \dots$
p.153, 式 (3.256)	同上	同上
p.189, 1.5	正振動部分を $\varphi_A^{(+)}$ ... 負振動部分を $\varphi_A^{(-)}$ ...	正振動部分 $\varphi_A^{(+)}$ ... 負振動部分 $\varphi_A^{(-)}$ ...
p.189, 1.7	右にもっていく	左にもっていく
p.191, 式 (4.148)	$\Theta(x^0)e^{ik^0x^0} + \Theta(-x^0)e^{-ik^0x^0}$	$\Theta(x^0)e^{-ik^0x^0} + \Theta(-x^0)e^{ik^0x^0}$
p.286, 式 (B.22)	(両式のどちらにも記号 $dt$ が落ちている)	(両式のどちらも最後に $dt$ を追加)
p.294, 式 (B.82)	$= R_{ij}V_j$	$= V_j R_{ji} = (R^{-1})_{ij}V_j$
p.294, 1.12	となり, 基底の...	となる.
p.309, 1.26	ヘビサイド-ローレンツ単位系 ..... ix, <b>xiii</b>	ヘビサイド-ローレンツ単位系 ..... ix, <b>xiii, 13</b>
p.310, 1.16	(ローレンツ-ヘビサイド単位系の項目)	(この項目を削除)